

**2016 J2 順位表 第 41 節**

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	札幌	84p	+32	65	33	H●	A●
2	清水	81p	+47	83	36	H△	A●
3	松本	81p	+29	59	30	H●	A△
4	C大阪	75p	+15	61	46	H●	A●
5	京都	66p	+11	48	37	H●	A●
6	岡山	64p	+14	55	41	A○	H●
7	町田	62p	+8	52	44	A△	H●
8	横浜FC	59p	0	48	48	A○	HO
9	徳島	57p	+5	45	40	A○	H△
10	愛媛	56p	+2	41	39	A○	HO
11	千葉	52p	-1	51	52	A●	H●
12	山口	50p	-10	53	63	H●	A○
13	水戸	48p	-2	45	47	HO	A●
14	長崎	47p	-10	39	49	H●	A●
15	熊本	46p	-14	38	52	H●	A●
16	山形	44p	-9	40	49	H●	A△
17	群馬	44p	-14	49	63	A●	HO
18	東京V	43p	-16	41	57	A△	
19	讃岐	42p	-19	42	61	A●	H△
20	岐阜	40p	-26	43	69	---	---
21	北九州	38p	-18	43	61	HO	A●
22	金沢	38p	-24	36	60	A○	H●

今季も全ホーム戦で『岐大通』を  
発行することが出来ました……と  
なるかは、「J2/J3入替戦に出ること  
になるか」にかかっています。  
この試合で残留を決めましょう!!

today's guest : **東京ヴェルディ**

2015 J2 16勝10分16敗 勝ち点58: 8位

直近の対決と結果

2016/06/08

J2 - 17節@西が丘

**東京V 1-1 岐阜**

阿部正紀 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		東京ヴェルディ	
2016/11/12 J2 - 41節@うますた 熊本 1-0 岐阜	2016/11/12 J2 - 41節@味スタ 東京V 1-2 C大阪		
2016/11/06 J2 - 40節@長良川 岐阜 2-0 横浜FC	2016/11/06 J2 - 40節@松本 松本 2-0 東京V		
2016/11/03 J2 - 39節@長良川 岐阜 2-1 群馬	2016/11/03 J2 - 39節@味スタ 東京V 2-2 山口		

金沢と北九州の……

	両方とも引分か敗戦	どちらかが勝利	両方とも勝利
FC岐阜が勝利	J 2 残留	J 2 残留	J 2 残留
FC岐阜が引分か敗戦	J 2 残留	入替戦	J 3 降格

●2016年J2リーグ終盤戦、激しい残留争いの渦中にあるFC岐阜。最下位で迎えた第40節・11/6(日)のホーム戦は、プレーオフ争いをする横浜FCを相手に苦しい試合展開だったが、#33レオミネイロの2ゴールそして5/15(日)第13節以来となる無失点で勝利。ホーム連勝で今季最多となる9,060人で埋まったメモリアルを大いに沸かせるとともに、貴重な勝ち点3を積み上げて順位も19位となり、残り2試合で降格圏からの脱出を果たすことができた。3連勝をと乗り込んだ、11/12(土)アウェイ熊本戦だったが、惜しくも1-0で敗戦。讃岐が勝利して残留争いから抜け出し、21位・北九州と22位・金沢は引き分けたため、岐阜の順位は20位に。勝ち点差も縮まって、J2残留の決着は最終節にまでもつれ込むことになった。

最終節は北九州と金沢はアウェイ戦、その点では岐阜が有利だが、岐阜は3チーム中で最も得失点差が低いために、勝ち点で並べられると順位が入れ替わる。よってJ2残留の条件は上図のとおりとなる。だが、追われる立場は危うい。僕らは「引き分けでも良い」試合に負けてしまうチームを何度も見てきたはずだ。ここは一旦、他チームの事を忘れて「目の前の相手に全力で勝つ」ことだけを考えよう。なにより今節は最終節そしてホーム最終戦だ。シーズン最後の試合を勝利して、自力残留を掴み取ろう。

さて、そのシーズン最後となる対戦相手は、現在18位の東京ヴェルディ。“オリジナル10”にしてJリーグ初代王者。今シーズンは前節でJ2残留を決めたチームではあるが、第37節には首位・札幌に2-1で勝利したチームでもある。そして、東京Vとの通算対戦成績は岐阜の3勝3分10敗・13得点29失点と非常に相性の悪い相手だ。ただし、ホーム戦は2勝1分4敗・7得点9失点と若干分が良くなるのを好材料と考えたい。昨シーズンは2敗を喫しているが、今年のアウェイ6/8(水)第17節は、#2阿部正紀がPKを献上して先制されたが、その阿部が同点ゴールを決めて1-1のドロー。ホーム戦となる今節は、何としても勝利しなくてはならない。

ヴェルディの要注意選手には、まず“高木三兄弟”の次男・#10高木善朗と三男・#18高木大輔を挙げておきたい。また、6得点の長身ブラジル人FW#17ドウグラス・ヴィエイラにも要注意だ。対する岐阜は、CB#30田代雅也が出場停止なのが苦しいところだが、他のDF選手の活躍に期待したい。その点でも、まずは安定した守備が求められる。奇しくも岐阜のGKは3人ともヴェルディ出身。#1常澤聡(04~06年)・#21高木義成(00~09年)・#22ポープ・ウィリアム(13~レンタル中)の誰が出ても、ヴェルディの攻撃陣を無失点に抑える活躍に期待したい。一方のヴェルディにも13~15年に岐阜に在籍したGK#26太田岳志がいる。出場は不明だが、いずれにしてもGKに注目する試合となりそうだ。

泣いても笑っても、これがシーズン最終戦。ならば笑って終わろう。そのために今節も、選手の後押しをする拍手と声援を最後まで全力で送り続け、勝利を掴み取ろう。自分を信じ、仲間を信じよう。選手やスタッフ、フロント、地元企業などのスポンサー、そして僕らサポーター。すべての仲間が気持ちをひとつにして“オールFC岐阜”として、すべてを賭けて戦おう。この決戦、最後に笑うのは、僕たちだ。(ささたく)

**Living in Woods**  
本庄工業株式会社  
<http://www.honjo-woodream.com/>

**岡田歯科医院**  
岐阜市加納新本町1-23  
tel:058-273-8998

**ALADDIN**  
何も無い店だけど..  
心の花が咲く..  
何も無い店だけど..  
心癒される..  
忘れかけていた喫茶店がある  
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。  
『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から  
徒歩3分。  
休:月曜日

**投稿募集!!**  
アドレスが変わりました  
[gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## まず、編集人から一言。

●普通、こういう構成にはしない。「編集人から一言」のようなコラムは、通常は巻末に載せるものだ。

昨季の最終号に、ぼくは「ラモス体制1年目は『変化』だったとするなら、残念ながら2年目は『停滞』だった。だとするなら、3年目は『代謝』とする時ではないか」と書いた。実際は違った。3年目は『凋落』だった。

これまで、FC岐阜は何度も「残留争い」を経験してきたが、この『岐大通』のシーズン最終号が「残留決戦号」になったことは一度もない。今季が初めてだ。町田や鳥取が降格した年は残留は決まっていなかったが、シーズン最終戦はアウェーだった。富山が降格した年もシーズン最終戦はアウェーだった（この年は残留争いからは早めに解放されていた）。去年は久しぶりに「シーズン最終戦がホーム戦」だったが、最終戦直前（第41節）によりやく残留争いから解放され、安心して『岐大通』を作ることが出来た。

さて、そんな「残留争いのベテラン」FC岐阜だが、『勝って残留を決めた』ことは一度もない。町田が降格した2012年、最終戦で岐阜も負けたが町田も負けた。鳥取が入替戦で降格した2013年、最終戦の1つ前（第41節）で岐阜も負けたが鳥取も負けて残留（入替戦回避が確定）した。栃木が自動で、大分が入替戦で降格した昨年（2015年）、やはり最終戦の1つ前（第41節）で岐阜も負けたが大分も負けて残留（入替戦回避が確定）した。

今年も『勝って残留を決める』ことが出来る立場にいる。多くの気持ちを正直に言おう。「ひどい3年間」だった。そんな3年間を綺麗に終わらせ、そして新しいFC岐阜の歴史を紡ぎ始めるために、今年こそ『勝って残留を決めよう』じゃないか。2週間後に『岐大通』入替戦号を作るのなんてイヤだし、作る必要はなくなったけれどそれは「自動降格が決まったから」なんてのは、もっとイヤだ。（編集人：吉田铸造）

## 【第40節】岐阜2-0横浜FC

●ホントに苦しい試合でした。横浜のイバは大きいけど、足元柔らかいし、いいFKも蹴るしでいやらしい選手。彼をどう抑え込むかがカギになると思ったけれど、DF陣を中心に体を張って決定的な仕事をさせることがなかったのが大きかったかなと。

そして攻撃の方は、カウンターから得たPKと、同じくカウンターからGKもかわしたレオミネイロの2発で勝利！5月の岡山戦以来のクリーンシート！パウロも前節に続き効いてたなあ。彼の独特のリズムのドリブルは相手も手こずってたし。でもまだ何も決まっちゃいない。しっかり気を引き締めて次節の熊本戦に向けて準備を。そして願わくば、残留決めて帰ってきて欲しいですね。（岐阜の誇り）

●スゲー、本当にやりやがった！……冒頭から、いささか下品な言葉遣いで申し訳ありません。しかし、「マスト勝ち点6」。そう思っていたホーム・長良川での連戦をしっかりと、ガッチリと勝ち切ってくれたこと。ミッションを完璧に遂行してくれた選手に対して何か一言を、と考えるとこうなってしまう。マスト、とか言いながら一番信じ切れていなかったのはボクかもしれない（苦笑）。

それにしても、この試合の雰囲気は本当に素晴らしかった。絶賛に値する。前節に引き続いて、選手バス到着時の応援をピッチ内で実施したことから始まり、キックオフ直前のゴール裏で肩を組んでの「誇り胸に」。そして、9千人を超える観客。まさに、これぞホームといった状況がこの試合の命運を岐阜の勝利に傾けたと言っても過言ではないと思う。その雰囲気が先制点となったレオミのPKも呼び込んだのではないだろうか。

とはいえ、結果的には2-0だったけれども、いくつかの分

岐点は少なからずあった。特に、前半終了間際の横浜のシュート。ポストに当たったボールが枠外へ逸れていってくれたことに、心の底から感謝を申しあげたい。胸をなでおろしながら、仲間と「カラダを張ってゴールを守ってくれたポストに感謝しないとね。」と軽口を叩きあっていたら、前半終了と同時に常澤がポストをトントンと叩いて感謝してからベンチに戻っていった。象徴的で感動的なシーンだったと思う。この試合の焦点の一つに、昇格プレーオフの芽を残している横浜がキックオフからガンガン来るのか、それとも中二日というコンディションの面も考慮して後半勝負にするのかというところがあったんだけど、試合が始まってなかなかギアを上げてこないのを見て「死んだフリなのか？それとも、本当にうごけないのか？」と気になっていたんだが、どうやら後者だったみたい。ゲスな話だけど日程組んだ方にも感謝しなければ……。

とにかく、ホーム・アドバンテージを生かし切った内容での完封勝利。連勝の勢いを持って次節の熊本で残留を決めてしまいたい。そのあと押しをするためにも現地うまかなよかなへ行ってまいります！（ぐん、）

●前節・群馬戦をアディショナルタイムの劇的な逆転ゴールで勝利したけれど、でも相手は前半25分から10人だった17位のチームだった訳で。プレーオフが懸かった7位のチームとなれば、そんなに簡単に行くはずがない。しかも3連戦の3戦目。相当に厳しい戦いを強いられるという覚悟を…覚悟が…あれっ？というのが、僕の試合序盤の印象だ（笑）。もちろん岐阜の選手たちが最初から試合に集中できていたのもあるが、予想よりも横浜FCの迫力が欠けていた。やはり中2日でホーム連戦というのは、相当に有利だったのかもしれない。もちろん、ポストを叩くヒヤリとしたシーンも何度かあったけれど、それを無失点に抑えることができたのは、少しはサッカーの神様が微笑んでくれたのかな…。そして、この大事な試合で2ゴールを決めてくれる#33レオミネイロの頼もしさときたら…試合終了の笛が鳴るまでは決して喜ぶまいと気持ちを張り詰めていた僕ですが、2点目が決まった際には、その気持ちとは裏腹に大粒の涙が頬を伝ったことを、恥ずかしながら告白しなくてはなりません（苦笑）。この後に失点、下手をすると同点にされてしまうのがウチの悪いクセ（苦笑）だけど、今節の選手たちは最後まで集中してゴール前を固め、そして、笛が鳴り…無失点での試合終了。試合終了間際には、キング・カズの「顔見世興行」も行っていたかまして（笑）、9,060人のお客さんも大満足の試合だったと思う。このホーム2連勝、本当にデカイ勝利だ。

そうそう、試合開始前とハーフタイムにピッチ上に散水してたけれど、初めて見たかもしれない…もちろん設備があるのは知ってたけれど、水を撒くとボールが早く転がるからパスサッカーを狙うチームがやるものだと…その理由、メグさんの要望なのかスタジアムの都合なのか、機会があれば聞いてみたいものです（笑）。（ささたく）

●久しぶりの「快勝」だった。これだけの快勝は今季のホームでは初めてかもしれない。理由は、相手の強力FWイバを抑え込むことに成功したこと、同じ“中2日”ながら岐阜は「ホーム連戦」だったので身体的負担が少なかったこと、そしてやはり大きかったのはパウロの存在だ。彼は状況に応じて「桂馬」にも「銀将」にもなる。これまで、守備は7人でやって攻撃は外国人選手にお願い！だったものが、パウロの存在で劇的に変わった。ボールが「パウロから出てくる」だけでなく、「パウロがボールを運ぶ」ことが出来ることになり、相手守備陣の負担が確実に増した。それは即ち、「相手の攻撃頻度が減って岐阜の守備負担が減る」という好循環をもたらす。ゴールを決めたのは2回とも「相手の裏をとった」レオミのスピードと技術だが、「影のマン・オブ・ザ・マッチ」としてパウロを挙げたい。（吉田铸造）

## 【第41節】熊本1-0岐阜

●勝ち点1でも積みばJ2残留が決まる熊本。“J2昇格同期”の僕らと勝ち点を分け合う…なんて気持ちは全くなかったです（苦笑）。でもそれは当然のこと。ホーム最終戦、しかも地震の影響で苦しいシーズンを過ごし、未だ復興の道半ばの地域・サポーターに勝利を届けたいという気持ちが、やはり熊本の選手たちの後押しになったのだろう…と思うことにしよう。失点のシーンは正直納得できないところもあるけど、審判の判定は絶対なのだから…って、そういえば最近どっかで判定をひっくり返した試合があったような気が…（苦笑）。ポジティブに考えれば、やっぱりホームスタジアムでの声援は選手たちの力になるということだよ。惜しむらくは、アディショナルタイムに#30田代雅也が退場処分を受け、最終戦は欠場なのが痛い。けれど、岐阜の選手たちだって、必ずや最終戦を勝利で飾ってくれる、そう信じてます！（ささたく）

●う～ん、残念。試合後のスタッツで見る数字以上にウチが押してた。逆に、熊本の出来はよくないように見えた。それだけに残念。失点した場面は集中力が切れていたように見て取れた。本当にあの一瞬だけだった。悠斗が倒れたまま動けなくなった時、ボールの動きを見ているのではなく、「早くプレーを止めてくれ。止めてくれるんだろ？」という目で主審を気にしたり、熊本に「ボールを出してくれ！」と訴えることに比重がかかったように見えた。確かに不運ではある。しかし、主審の判断に誤りはない。ほとんどワンタッチでパスをつないだ熊本の連携も、敵ながらアップレ！だったが防げなくはなかったのではないかな。常澤のビッグセーブが二度ほどあったと思うが、前半の、横浜戦の再現か？と思わせるようなレオミの突破の場面と、後半のナンちゃんのヘディング・シュート。決めなくてははいけないシュートを外した岐阜と、決めるところを確実に決めた熊本。次節がC大阪だけに、是が非でもこの試合で残留を決めにかかった熊本の執念が試合の趨勢を決めたのかもしれない。

試合の終盤には自陣深くに縮こまり、ブロックを固めて出てこない熊本に対し、真ん中を崩せないならサイドからと、いろいろ揺さぶりをかけ、若干遠い間合いからでもシュートを狙っていたが熊本ゴールをこじ開けるには至らず。残留確定は最終節に持ち越しとなってしまった。やはり、最大の焦点は前半のレオミのシュートが防がれた場面か。熊本のクリアも素晴らしかったが、反対にレオミのトラップも少し流れていたのは疲れのせいなんだろうか？幸い、リーチがかかってからレオミに警告はなく、最終節への出場も可能となった。ただ、それと引き換え、というワケではないだろうが田代が退場。ルーキー・イヤーの難しい一年をほぼ全試合出場し、レギュラーとして活躍してくれていた田代の欠場は残念だし不安。それでも、誰かが、そしてメンバー全員で彼の穴埋めをするしかない。田代には「この一年間おつかれさま。ありがとう、よくがんばってくれた。」とお礼を述べたい。とにかく、下位2クラブとの勝ち点差は2。得失点差が不利なウチには勝ちしかない。悔しい敗戦だったけど、目標がクリアになったのはいいことだ。勝てば何の問題もない。残留を自らの手で勝ち取る。そのために、共に力を合わせて全力を尽くしましょう！（ぐん、）

## 最終号恒例：今季のベストゴール、ベストゲーム、MVP

### 【ベストゴール】

●第19節(6/19)・アウェー横浜戦の決勝ゴール。野津田でのレオロシャのミドルやポカスタでのブルーノの2点目。あるいは西が丘でのアベちゃん、本城でのレオミのミドル等々候補が多くて悩んだけど、阿部ちゃんの光速ロングのアシス

とも含めて選定しました。（ぐん、）

●第28節(8/11)・アウェー松本戦での瀧谷の同点ゴールを。斜め後ろ（それもかなり後ろ側）からのむずかしい角度からのボールをダイビングヘッドで入れた、まさに「センターフォワード」らしいプレー。その後の『アルウィンの沈黙』をもたらした効果も含めて選出。（吉田 Casting）

●第32節(9/18)・ホーム愛媛戦のレオナルドロシャ選手のCKが直接ゴールインしたゴールですね。（岐阜の誇り）

●第32節(9/18)・ホーム愛媛戦のレオロシャ。ゴール単体のインパクトなら、やはり彼だよなあ…と。第11節(5/3)・アウェイ町田戦での、ペナルティ外からの同点ゴールも凄かったです。アディショナルタイムのCKを直接叩き込んで、6ヶ月振りにホームでの勝利をもたらしたゴールを。ゴール後の“腕組み”パフォーマンスも好印象です（笑）。（ささたく）

### 【ベストゲーム】

●第4節(3/20)・アウェー愛媛戦。2008年のJ2参入から8年間、1ゴールすら奪えなかった（スコアレスドローの試合もあるので「勝ち点」は獲えているが）『魔境』ニスタのゴールをこじ開けたのは若武者・瀧谷だった。その後も得点を重ねての快勝だった。（吉田 Casting）

●第40節(11/6)・ホーム横浜戦を挙げます。“完勝”という意味では、“魔境”ニスタを初攻略した第4節(3/20)・アウェー愛媛戦(3-0)も捨てがたいのですが、ここは、1)今季ホーム最多9,060人の観客の前で、2)シーズン終盤の残留争いの中で、3)2連勝となる完封勝利を挙げた、という点を評価して。（ささたく）

●第40節(11/6)・ホーム横浜FC戦。とにかく、試合前から終了までの雰囲気最高だった。いろんな手配とか難しいことをクリアしてくれた関係者の方への感謝も含めての選定。ただ、ゴールもゲームも今日の最終節が一番であることを心から期待しています！（ぐん、）

### 【MVP】No.33 レオ・ミネイロ

●文句なしでしょう、昨年を上回るゴール数にチームに対する献身っぷりは目をみはるものがありました。（岐阜の誇り）

●悩む必要なし！時にキャプテン・マークを巻くこともあったが、それにふさわしいパフォーマンスだった。あの本城でのことは一生忘れない。結果でも行動でも今季の岐阜をけん引してくれたと思う。この際岐阜に家買っちゃえ！（ぐん、）

●チーム最多そして自己ベストの12ゴール、チーム最多タイの37試合に出場し、ドリブルポイントではJ2でトップ。献身的にピッチを縦横無尽に駆け回って攻守に貢献し、時にはキャプテンマークを巻く責任感。積極的に日本語も学び、サポーターを心から愛し、また愛される…。可能ならば、ずっと岐阜にいて欲しい選手です。（ささたく）

●選択の余地はないよなあ。監督交代で「まずは守備をどう作るか」という課題に向き合わざるを得ない吉田監督は攻撃は外国人まかせにするしかない。昨年以上に『戦術はレオミ』にならざるを得ない状況で、しっかりそのタスクに向き合いそしてこなししてくれた。偶然、岐阜の某レストランで家族(?)と食事をする彼を見かけたことがある。岐阜を気に入ってくれて、このまま残ってくれることを願います。（吉田 Casting）

◆恒例となりましたが、P(=Player)を「チームに参加している人=所属している人」と解釈して、今年もMVPは「宮田社長を筆頭とするチームのフロントの皆さん」に捧げたいと思います。今年もこれまでに劣らない企画ラッシュ！今年には特に県内42市町村中39の市町村でホームタウンデーを開催できたのが良かったと思っています。来年は全市町村で開催できると良いですね。来年もこの調子で宜しくお願いします。そしてあまりのハードワークに倒れないで下さいね（最敬礼）（ヤックル）

# 今季の、来季のFC岐阜へ。

●この記事を書いているタイミングで、チームがどのステージでプレーするかまだ決まっていません（溜息）が、オイラとしてはチームが無くなる訳じゃないんで、これまで通りのスタンスで応援していきたいです。

チームに対しての要望としては、これまで毎年のようにスクラップ&スクラップ（ビルドじゃありません（爆苦笑））してきたのを、そろそろ軸を定めてのチーム作りを切にお願いします。そうじゃないとチーム無くなりますよ。（ヤックル）

●10シーズン続けてますが、『岐大通』はじまって以来の“ホーム最終決戦”に臨み、いまだ今季の総括をする心境には、残念ながら至っておりません（苦笑）。戦闘モード全開でして、この最終節をしっかりと勝利してから、しっかりと振り返りたいなあ…と思いながら、チラリとだけ振り返ります。シーズン前から「CBが少なくないか？」って思ってた、案の定…ずっとCBの組み合わせに苦労した気がしています。そのため守備が安定せずに失点が…と言いたいところですが、実は昨年も71失点ですから、大して変わらない（苦笑&溜息）。結局、選手の個人技・センス任せで“戦術”や“積み上げ”が、少なくともサッカーに関しては無かったラモス監督の2年半だったのだろうと思っています。

吉田監督に交替してからは、“戦術”が少し見えてきましたが、やはりシーズン途中からでは苦しい。僕は、やはり「シーズン最初からの吉田サッカー」が見たいと思っています。そのためにも、クラブが「FC岐阜が今後どんなサッカーを目指すのか」という方向性を固める…もちろん非常に困難なことですが、それが求められているのではないのでしょうか。

また、「地域に根ざすクラブ」という、今西さんが掲げた経営方針も、若干薄れてしまっているかなと気になります。いわゆる親会社を持たない地方クラブですから、昔のように…とまでは無理なのかもしれませんが、もう少し、地域に「顔の見える」クラブに回帰して欲しいなあと思っています。

…と、超簡単に振り返りました（笑）。さあ、今この瞬間は前を見て、勝利&J2残留を掴み取りましょう！（ささたく）

●2年半といううちでは最も長い時間を一人の監督に委ねてみたが、結局これまでと同様「積み重ね」というものが全く感じられず、自転車操業、もしくはその場しのぎといった形容が似つかわしい状況のまま終始してしまった。戦力的に不足があったとは思わない。逆に人件費はリーグでも上の方にいるんじゃないのかな。それでも、毎年同じような位置で残留争い。J3から上がったクラブでも、キチンとした理念、戦略や戦術を練り込んで戦えばちゃんと結果が出せる。それを実際に見せてくれたのが他のクラブというのが歯がゆくてならない。

思えば、自転車操業とか積み重ねという言葉は昨季のこの紙面にも書いた言葉だ。いろんな紆余曲折があって、継続するのも困難だったとも思う。だが、今一度クラブの理念、目的と目標を見直して、地域に根ざすクラブとしての土台を築きあげていってほしい。それはどのステージにいてもできるはず。願わくば、J2でそれを進めることができますように。

（ぐん）

●これまで、FC岐阜は何度も何度も監督を交代させてきた。その“弊害”をぼくら古株系はずっと見てきた。ラモス氏は「3年という長期だから契約した」と彼は応えていたと記憶している。だから、ぼくはその『3年構想』に期待した。同じ監督が長い時間をかけてチームを構築していく過程を、ぼくらはようやく視ることが出来る、と。

実際のところ、ラモス氏の『3年構想』は「3年間メシが喰える」に過ぎなかったわけだが。きっと西欧の寓話のように、ラモス氏はクラブ上層部に「チームがよくなっていく過程はバカの目には見えない」とでも言っていたのだろう。「王様は裸だ！」と叫んでくれたのは、他でもない『対戦相手』だった。

吉田監督には、鳥栖時代に尹晶煥（ユン・ジョンファン）監督の突然の辞任を引き継いでチームをキチンとまわした実績がある。しかし、『相続』というのは「すべてを相続する」のが原則。鳥栖の時と違って、吉田監督が引き継いだのはチームの「負債」だった。さぞ、大変な思いをされたことだろう。来季は戦うカテゴリーが変わるかもしれない。万一、そうなった場合にも、吉田監督には感謝の言葉を伝えたい。

そして、クラブに是非お願いしたいこと。「この3年間」をどう位置づけるのか。ラモス『氏』の残したプラス効果と、ラモス『監督』の残したマイナス効果と。そして、プラス効果をどのように今後のクラブ運営に活かしていくのか、しっかり検討してほしい。“J1昇格”という『お題目』を、「夢物語」からとりあえず「夢」くらいには格上げさせる、そのために。（編集人：吉田铸造）

## 11/13 現在の、J3 順位表。

（残り1試合）

自動昇格	1	大分	58pts +24	得点 46	失点 22	★保有
入替戦	2	栃木	58pts +18	得点 36	失点 18	★保有

●昨年、J2から降格になった2チームの「最後の直線の叩きあい」になりました。最終節（今日 13:00 から一斉開始）は大分は鳥取と、栃木は盛岡と、ともにアウェー戦。1位は自動昇格となり、2位はJ2の21位と入替戦に臨むことになりました。

入替戦の第1戦はJ3側ホームで11/27（日）、第2戦はJ2側ホームで12/4に開催の予定となっています。（編集人：吉田铸造）